

皮膚科

○皮膚科の概要

1. 皮膚科の特色

皮膚科では、アトピー性皮膚炎や接触皮膚炎などの湿疹・皮膚炎をはじめ、蕁麻疹やアナフィラキシー、薬疹などのアレルギー疾患、乾癬、帯状疱疹や蜂窩織炎など一般的な皮膚感染症、壊死性筋膜炎などの重症細菌感染症、悪性黒色腫や有棘細胞癌などの皮膚腫瘍、熱傷や糖尿病などによる各種皮膚潰瘍、血管炎、皮膚筋炎や強皮症、全身性エリテマトーデスなどの膠原病、天疱瘡や類天疱瘡などの水疱症、母斑症などの先天性皮膚疾患などを幅広く扱っており、皮膚科臨床研修では、入院及び外来診療を通して、これら皮膚疾患全般について病態を理解し、診断と治療について学ぶことができる。当科の専門外来として、アトピー性皮膚炎外来、乾癬外来、真菌症外来、膠原病外来、皮膚外科外来、脱毛症外来、レーザー外来があり、陪席し、学習できる。さらに外来や手術室での手術、パッチテストやブリックテストなどのアレルギー検査、Q-スイッチルビレーザーやダイレーザーなどによる色素異常症や血管腫のレーザー治療、ナローバンド UVB 療法などの紫外線療法、生物学的製剤を用いたアトピー性皮膚炎や乾癬、蕁麻疹治療など広く研修することが可能である。カンファランスでは、臨床像と病理組織を供覧し、診断や鑑別疾患、治療などにつき深く議論するので、参加することで、実際の皮膚科診療の思考過程を身につけることができる。

2. 診療実績（主要入院症例）

【皮膚悪性腫瘍】	SLE	動脈閉塞・静脈血栓症
悪性黒色腫	皮膚筋炎	熱傷
有棘細胞癌	【血管炎】	【動物咬傷】
(Bowen 病、日光角化症含む)	IgA 血管炎	マムシ咬傷
基底細胞癌	皮膚動脈炎	【湿疹】
血管肉腫	【感染症】	アトピー性皮膚炎
悪性リンパ腫	蜂窩織炎（丹毒含む）	自家感受性皮膚炎
【皮膚良性腫瘍】	壊死性筋膜炎・ガス壊疽	【乾癬】
粉瘤	帯状疱疹	尋常性乾癬・膿疱性乾癬
脂肪腫	カポジ水痘様発疹症	【薬疹・中毒疹】
神経線維腫	【膿皮症】	ステイブンスジョンソン症候群
毛母腫	化膿性汗腺炎	中毒性表皮壊死融解症
【水疱症】	【皮膚潰瘍・血行障害】	薬剤性過敏症症候群
天疱瘡群	糖尿病性壊疽	その他の薬疹（紅斑丘疹型など）
類天疱瘡群	鬱滞性脂肪織炎等	【蕁麻疹】
【膠原病】	強皮症による皮膚潰瘍等	蕁麻疹・アナフィラキシー

3. 診療スタッフ

常深 祐一郎（教授・診療部長）：皮膚真菌症、アトピー性皮膚炎、乾癬
宮野 恭平（講師・診療副部長・外来医長）：乾癬、皮膚アレルギー
竹治 真明（助教・病棟医長）：皮膚科全般
椎名 雄樹（助教・医局長）：皮膚科全般
岡部 正和（助教）：皮膚真菌症
佐々木 庸介（助教）：皮膚腫瘍、皮膚外科
ほか助教 17 名（含専攻医）

4. 臨床研修プログラムの特色

臨床研修の到達目標にあげられた項目の中で皮膚科において経験できる手技を経験するためのプログラムである。将来、皮膚科医として専門医を目指す者にとっては、その基礎となる研修プログラムである。また、科を問わず臨床医を目指すすべての者にとって習得しておくことが望ましい内容が含まれている。

5. 指導責任者

常深 祐一郎（教授）
宮野 恭平（講師）

6. 週間予定

	月	火	水	木	金	土
9:00	教授回診	手術	外来	病棟	外来	病棟
10:00						
11:00						
12:00						
13:00	(休憩)	(休憩)	(休憩)	(休憩)	(休憩)	
14:00	専門外来	手術・病棟	専門外来	専門外来		
15:00						
16:00		カンファランス	カンファランス			
17:00						

基本的にすべて通常の勤務時間帯におさまる週間予定としている。
週5日勤務のため、実際は上記6日のうち土曜日など1日は休日とする。

○皮膚科の学習目標

一般目標 (GIO)

臨床医に必要な皮膚疾患診療の基礎的能力を身につけるために重要な疾患の診断と治療の実際を学ぶ。

行動目標 (SBOs)

1. 皮膚病変の発疹を記載できる。
2. 局所麻酔や簡単な切開排膿ができる。
3. 簡単な皮膚縫合ができる。
4. 創部の消毒や包交、皮膚病変に対する外用処置ができる。
5. 熱傷、化学熱傷の治療計画が立てられる。
6. 湿疹・皮膚炎患者、蕁麻疹患者を経験し治療を行う。
7. 膠原病患者、水疱症患者を経験し治療を行う。
8. 薬疹患者を経験し、治療を行うと共に、原因を検索するためのアレルギー検査を行う。
9. 多種の皮膚感染症を経験し、検査、治療計画が立てられる。

研修方略 (LS)

病棟診療においてチームラウンド、ベッドサイド回診を通して受持患者の診療に関して指導医より指導を受ける。
毎週火曜日、水曜日の症例カンファランスを通して研修医が経験した症例を議論し、スタッフよりフィードバックを受ける。紹介患者の症例検討会（大学主催）や皮膚科学会地方会において受持患者の症例を発表し、質疑応答を行いフィードバックを受け、理解を深める。

評価方法 (EV)

チームラウンド、ベッドサイド回診、カンファランス（週2回）、症例検討会を介してスタッフ、指導医が評価を行う。